

「五感で味合う福祉体験授業」指導案
 ○○小学校（中学校）○年生 高齢者疑似・車いす・アイマスク体験

小林市社会福祉協議会 福園尋恵

【体験日程等】

実施日	授業時間	生徒数	担当 aid さん
●/● (●)	9:35~12:15	34名	○○さん・○○さん

Step		学習内容	指導上の留意点
1	事前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜだろう・どうしてなのかな。」探し体験する内容に合わせ、自身と比べての違いや不思議に思うこと、疑問に思うこと、気になることをより多く探してみる。 ・校時の時間が取れるときは、クラスで情報の共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃、当たり前で何気なく見過ごしていた些細な違いにも目や気が行くように声掛けをしていく。 ・ただの調べ学習で終わらせず、実生活から感じ取るように働きかけていく。 (校時が取れない時は、宿題でも可能) ・情報共有時は、相手の意見を否定しないルール作りをしておく。
2	体験	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>高齢者疑似体験</u> 生活動作を取り入れ、違いを体感する。 例：寝る、飛び起きる、階段の上り下り お風呂に入る（跳び箱を利用） 名前を書く（重なっている用紙から1枚取り、薄い色の枠の中に書く） お金を財布から取り出す お箸を使う 色を見る（図工の教科書等） ・<u>車いす体験</u> 砂利道、芝生、坂道、階段、高低差のあるスロープ等、障害物の多い場所を利用。 段差以外は、自走をする。（自走時、介助者は必ず車いすの真後ろに待機し、一緒に移動する） どうしても自力で動かすことが難しい時は、介助者に車いすを押してもらおう。 全力疾走体験 階段の上り下り（1人座ったまま、4~5人で車いすを抱える）等 急な下り坂を前向きに下りる。 段差を前向きに下りる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教諭も一緒に体験してもらおう。（児童・生徒との共感を深めるため） ・マイクは使わない。 ・怒らない、注意をしない。 ・楽しむというスタンス。 ・子どもたちから目を離さない。 ・地域の民生委員(aid)等に学習参加の協力依頼をする <p>【高齢者疑似体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・装具の装着に20分を要するため、十分な時間確保を設定する。 <p>【車いす体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本操作のみ説明。 (体験中に身体や五感で感じ、気づきを促すため) ・段差の上り下り等は、体験中に説明する。 ・意図的に、間違ったやり方も体験させてみる。

	<p>・アイマスク体験 砂利道、側溝、坂道、階段、校庭の遊具等 障害物の多い場所を利用。 音を聞く(風や側溝に流れる水、道路を走る車等) 一人全力疾走体験等</p> <p>(可能であれば、校外の道路も利用する)</p> <p>・振り返り 体験した感想を聞く。 (疲れた。しんどかった。きつかった。腰が痛い。 怖かった。楽しかった。等々の意見を全て、 そのままに聞く。) 体験して感じ取った、自分たちと違いがある中 で、「凄いところや素晴らしいところ」はどんな ところがあるかを尋ねていく。 (私たちはここで、高齢者の知恵の深さや障がい 者スポーツとそのトレーニングに取り組む姿 を話をしている) その凄いところや素晴らしいところを「凄いね、 私たちにもできないようなことがたくさんある ね。」と話していく。 次に、「では、同じところは？」と尋ねて(目、 鼻、口、身体、ごはんを食べる、寝る、お風呂に 入る、歯磨きをする、趣味がある、等々) 同じところの中に、気持ちや感情もあることを投 げかけ、高齢者、障がい者、友達等々、みんなが 心を持ち、感情があり、意思があることを伝えて いく。 次に、「どんな違いがあったか。」を聞き、違いは あるけれども、その違いを認め、共感することが 大切であること、私たち、一人ひとりも違いがあ り、全ての違いは個性であることを伝えていく。 そして、高齢、障がいに関係なく、みんな、各々 が、できる事、できない事、得意なこと不得意な ことを持っていることを伝え、高齢者や障がい者 は、決して、「特別で、可哀想な人」ではないこ と、皆、私たちと同じ人であることを伝えていく。 また、「車いすや白杖は何か」と問い、使う方 にとって、みなさんたちの体と同じ、その方々の 大切な体の一部であり、物や道具ではないことを 伝える。 最後に、ふだんのくらしのしあわせ(ふ・く・し) とは、何か、誰のためにあるのかを問いかけ、事 前教育、体験から感じ、学んだことをもう一度、 みんなで話してほしいと締めくくる。</p> <p>※振り返りは体験時の児童生徒の様子に合わせ 内容をプラスしていく。</p>	<p>【アイマスク体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白杖や介助の立ち位置等 について説明をするが、詳 しい使い方については説 明しない。 (体験中に身体や五感で 感じ、気づきを促すため) ・耳に入ってくる音、肌に 触る風等の違いを感じら れるように声をかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間は 15 分 ～20 分程度 ・事前学習の「なぜ」が体 験で感じ取れているかを 観察しながら話を進める。 ・児童生徒からの言葉を待 つ。言葉が出てこない時 には、ヒントを出す。 ・児童生徒の言葉を聞き逃 さない。その言葉を認めて 次につなげていく。 ・児童生徒が自身も人との 違いがあることに気づく ように語りかけていく。 ・高齢者、障がい者に係わ らず、皆同じ人であり、一 人ひとりが大切な命があ ることに気づくように、語 りかけていく。 ・補助具は道具でなく、そ の方自身の一部、大切なも のであることを、児童生 徒、自らが気づくように話 をしていく。 ・ふだんのくらしのしあわ せは、すべての人(生きと し生けるものを含め)のた めにあり、当たり前のこと が、当たり前ではなく、と てもありがたい事である ことに気づいていけるよ うに語りかけていく。 ・ふだんのくらしのしあわ せを考える時、直近の災害 等の話も触れる。 ・振り返りは、あくまで投 げかけ。事後学習への課題 づくりになるように進め ていく。
--	---	---

3	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習、体験を通して感じたこと、気づいたことをベースに、振り返りの内容を深める。 <p>「なぜ」から体験で感じ取れたことは何か。 「凄い」は何か。 「同じ」は何か。 「違い」は何か。 を、みんなで話し合う。</p> <p>↓</p> <p>高齢者・障がい者・私たちにできること、できないことを考える。</p> <p>↓</p> <p>相手、自分にどうしてもできないことがある時には、どのようにしたら良いかを考える。</p> <p>↓</p> <p>「高齢者・障がい者・私たちのふだんのくらしのしあわせ」って、どんなくらしがしあわせなのかを考えてみる。</p> <p>↓</p> <p>自分たちにできることは何かを考える。</p> <p>プラスα 【中学校・高等学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちにできる行動を企画・立案し実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験での振り返りの内容を、一つ一つ確認していく。 各々の気づきに注目する。 否定、非難はしない。 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者も障がい者も私たちも、できること、できないことがあることに気がつくように仕掛けづくりをする。 相手が望むこと、望まないことがあることも伝える。自分の感情だけでは、押しつけになること、相手に尋ねてみることの大切さを、教育の中に入れ込む。(やってあげる、してあげる、助けてあげるはNG) ルール作りをする 非難、否定をしない等。 行動プランが実践できるよう、地域の理解を求めておく。
---	------	--	--

【参考】

高齢者疑似体験の流れ

- ①生徒は2人1組になります（体験者役・介助者役 ※交代で体験）
- ②最初の体験者役が道具装着
- ③担当者が各コーナーに3～4組ずつ振り分けて、体験スタート
- ④担当者の呼びかけで、次のコーナーへ生徒のみ一斉に移動
- ⑤全コーナー体験したら、次の体験者が道具を装着する・・・

